

ふるさとのよさがわかり、意欲的に取り組む子どもを育てるPTA活動

蓋井小学校PTA

1 学校地域の概要

蓋井島は、吉見港から1.3km(定期船「蓋井丸」で35分)、響灘に浮かぶ面積2.35km²、周囲13.5kmの小島である。

島は急な山地を成しており、南西側の湾に面した山裾沿いに、30数戸の家が単一集落を形成している。



本土からの上水道や下水道が完備され、美しい海が守られている。



漁業に関わる人が主であり、漁協の大型定置網、個人経営の小網、磯見、つり、海女業が主体である。また、水田や段々畑では、米、野菜、みかん、ツワブキ等を生産し、主には自家消費に充てられている。

地域の人々は人情に厚く、誠実である。伝統や文化を大切に、多くの行事が守り伝えられている。中でも、6年に一度(戌と辰の年)に行われる「蓋井島山の神神事」は有名で、国の無形民族文化財に指定されている。

現在蓋井小学校児童は、1年生1人、5年生1人、計2名(2名とも男子)の児童が在籍している。へき地複式学級編成の極小規模の小学校であるが、明治時代初頭から小学校が開設されていることから、島民が学校に寄せる期待も大きく、学校行事や島の行事を通して、深い関わりを継続しながら大変協力的である。

※次年度1年生女子の入学が予定



2 P T A組織

役員名	氏 名	備 考
会 長	藤 永 照 彦	総務・緑の少年隊担当
副 会 長	藤 永 恵 美	総務
副 会 長	植 木 聡 子	総務
施 設 部	藤 永 照 彦	施設修理・草刈り等
学校外活動部	藤 永 恵 美	釣り魚大会、門松づくり、竹切りなど
文 化 部	藤 永 照 彦	学芸会担当
保 体 部	藤 永 照 彦	キャンプ
監 査	藤 永 恵 美	子ども会・会計
顧 問	中 村 求	自治会長
	倉 本 武 志	前 P T A 会長

事務局（校長）

庶 務	校長 片山伸二	会の記録、文書の発送、庶務
	養護士 酒井ひとみ	
会 計	校長 片山伸二	会の経理

3 研修主題

ふるさとのよさがわかり、意欲的に取り組む子どもを育てる P T A 活動
 （サブテーマ）

大好きふるさと体験学習をとおして、ふるさと蓋井と自分自身を見つめ直す

4 研究計画

- ・ 漁体験－実際に蓋井島で採れる海産物を磯から漁の体験
 船に乗り、蓋井島の周りでの定置網掛けの方法と実際の漁の体験
- ・ デイ・キャンプ－対岸にある吉見小学校との交流学习をとおして
- ・ 蓋井島の山中に残る戦時中の残骸を見て、当時に人々の暮らしぶりを知る
- ・ 自然豊かな島に様々な野鳥が生息していることの観測(バードウォッチング)
- ・ 山の中にある小さな学校との交流

5 活動内容

(1) デイ・キャンプ

○ ねらい

- ・ デイ・キャンプを通して、交流する小学校との児童相互及び親子のより一層の親和感を高める。
- ・ 日常生活では体験できない活動をとおして、協力の大切さと信頼感を高め

ることによって、生活をより豊かにする素地を養う。

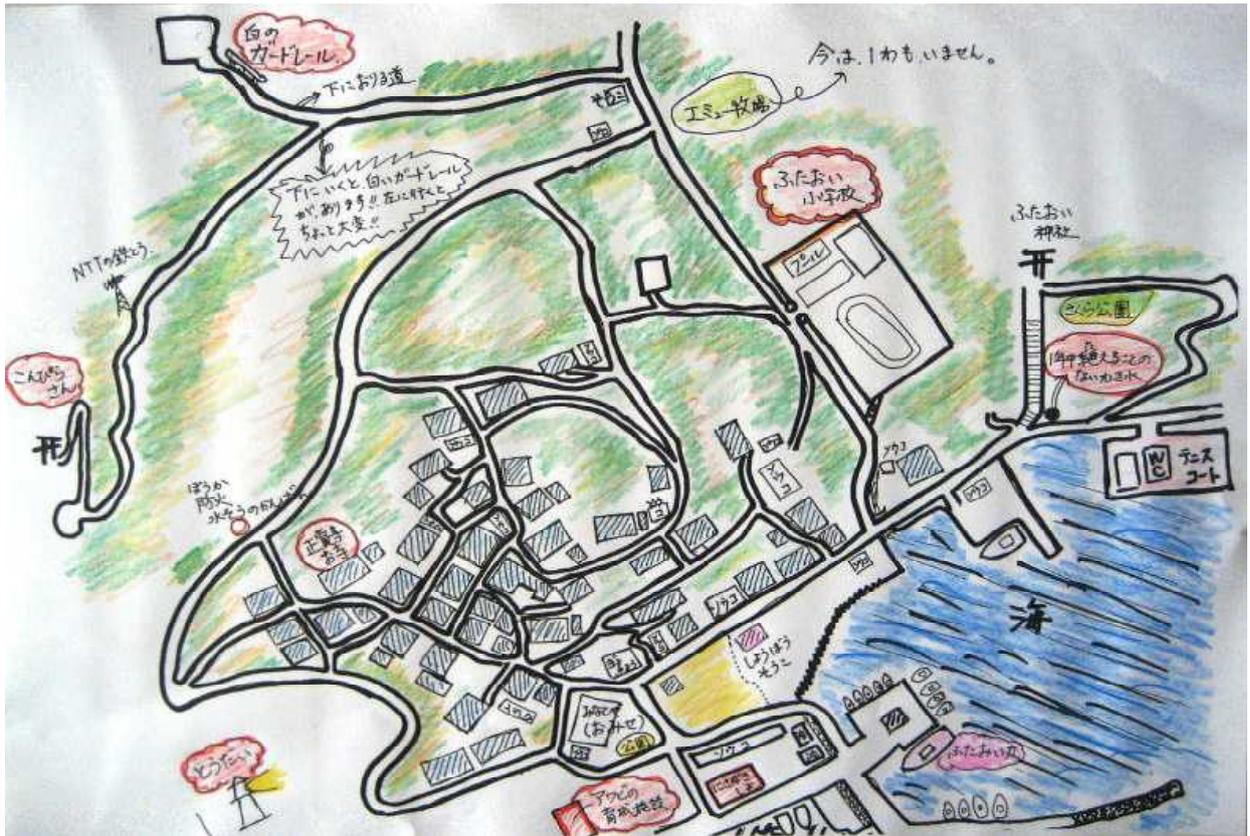
○ 活動日程

時間	日程	詳細	備考
8:30	吉見港出発		
9:05	蓋井島着 学校到着	・藤永翔大君と植木陸君が港に迎えに行きます。 ・体育館入口で受付	徒歩で学校へ
9:20	オリエンテーション	・あいさつ(5年 藤永翔大) ・日程説明 ・注意事項	
9:40	活動① クイズラリー ※緊急の場合は、 学校に連絡！	・クイズラリーの説明 ・グループごとに出発 (持って歩く物) 水筒 帽子 タオル 地図	注1 1年生の保護者の方は自分のお子さんの入っているグループに入る。 注2 5年生の保護者は各ポイントに立つ。熱中症予防のため、各ポイントには水分の用意
11:20頃	各グループ学校へ	・ゴール後、体育館へ 昼食準備	
11:45	昼食	・カレーライス ※蓋井小で用意 ・後片付け ・昼食終了後着替え	男子-教室 女子-更衣室
12:50	活動② 磯遊び スイカ割り	・車で移動-帰りも同じ (持っていくもの) バスタオル サンダルまたはスリッパ Tシャツ(日よけのため) 帽子	※浜は小石が多いため、サンダルよりは濡れてもよいズックの方で ※波高の場合は、運動場又は
14:30	学校へ	・学校に着いた児童から着替え、帰りの準備 ○シャワー使用可	体育館で活動
15:10	お別れの会	・感想発表 ・あいさつ(1年 植木陸)	
15:35	※後片付け 終了後港へ	・吉見小校長あいさつ	
15:50	蓋井島発		
16:25	～吉見港		

○ 参加者 計71名

- ・ 蓋井小 児童 2名 幼児 1名 保護者 4名 学校職員 4名
- ・ 吉見小 児童 25名 幼児 6名 保護者 23名 学校職員 6名

(クイズラリー地図と出したクイズの一部)



2-1 ここは、^{しま}島の^{ちゆうしんぶ}中心部^のです。さて、^{ふたおいしま}蓋井島の^{おも}主な^{さんきよう}産業^{ぎよきよう}は、漁業^{さかな}ですが島で捕れた魚は、いつもにどこの^{いちば}市場^{にも}もっていくのでしょうか？

- ① ^{しものせきし}下関市
- ② ^{きたきゆうしゆうし}北九州市の^{こくら}小倉
- ③ アメリカのハワイ



4 ここは、^{しま}島でたった^{ひと}一つある^{てら}お寺^{しょうかくじ}の「正覚寺」です。さて、^{ふたおいしま}蓋井島には、めずらしい鳥の「カラスバト」がいます。さあ、カラスバトはどれ？

- ①
- ②
- ③





← 今年もたくさんの方が参加してくれました。

最初に、藤永翔大君が歓迎のあいさつをしました。

まずは、地図を見ながら作戦会議 →



作戦会議が終わったら、クイズラリーに各班ごとに出発！

蓋井島のいろいろな場所を歩きました。少し難しいクイズもあったけれど、グループのみんなで協力して楽しく活動できました。



午後からは、磯にいった遊びました。もぐったり、岩に上がったりして、みんなで楽しく遊びました。スイカ割りにも挑戦し、「右!」「左!」「前!」「ちょっと後ろ!」などの声が飛び交い、とても盛り上がりました。

最後に、1年生の植木君が来てくださった方々に感謝のあいさつをしました。

また、来年も一緒に楽しいデイ・キャンプをやりましょうとあいさつをしました。



(2) 野鳥観察 (バードウォッチング)

○ ねらい

- ・ 島に生息する様々な鳥たちを観察することで、島の豊かな自然を保つという意欲を持たせる。

○ 活動の様子



さあ、どんな鳥がいるか双眼鏡で探すぞ！

この日は天気もよく、たくさんの鳥たちが姿を見せてくれました

山に入ると、食べることでできる実やおいのする木など、普段は何気なく見ている植物について詳しく教えていただきました。また、双眼鏡を反対に見るとルーペ代わりになることも教えてもらいました

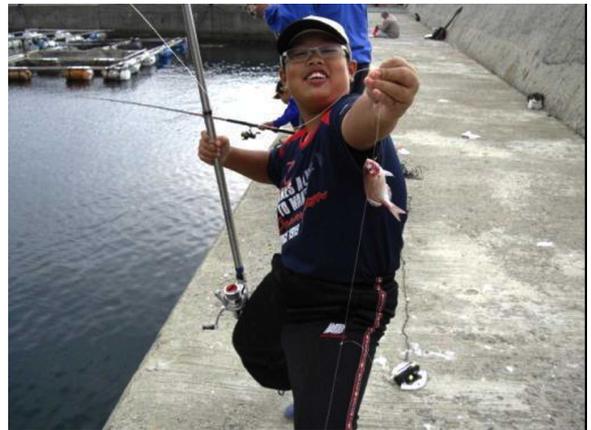


午後からは、海辺の鳥たちの観察に出かけました。ウミネコやサギ、そして島に生息する珍しい鳥カラスバトも観察することができました。

(3) 魚釣り

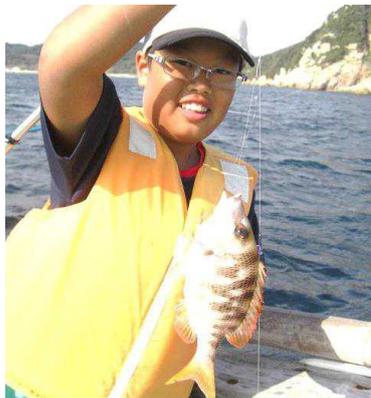
○ ねらい

- ・ ほとんどの島の方たちが生業としての漁業体験（魚釣り）をすることをおして、海の資源を大切にしようとする意欲を持たせるとともに、漁業という職業について理解と関心を持たせる



子どもたち2人とも楽しみにしていた船釣り体験。

P T A会長である藤永君のお父さんに船を出してもらい、颯爽と出航しました。しかし、しばらくすると波が高くなり、午前中は波止場からの釣りになりました。海の仕事には、自然と闘わなくてはいけないということを2人とも学んだようでした。



午後からは、波も収まり、船からの釣りに挑戦しました。

大きなカサゴ(ゴウチ)やフエフキダイなどたくさん釣れて、満足の日でした。

6 成果と課題

(1) 成果

- ・ 対岸にある下関市立吉見小学校とは、年間10回程度の交流学習を行っている。吉見小学校において交流学習を行っていることから、毎年夏休みの初めまたは1学期の終わりにデイ・キャンプを、蓋井島で行うことになった。

このキャンプにおいて、日頃交流の少ない吉見小学校のPTAの方々とも交流できたことは、児童だけでなく保護者にとっても大変有意義なものであった。参加した子どもたちと一緒に、保護者の方々も実際にクイズラリーで島全体を廻ったり、10カ所のポイントでクイズを出していただくなど、PTA会員の少ない本校ではなかなか実施できないことであり、PTA相互の交流にも大変役立った。

- ・ 豊かな自然に囲まれた蓋井島は、豊かな海産資源そして様々な生き物(イノシシ、タヌキなどの獣は生息していない)を実際に観察したり、児童自らの手で魚釣りをすることで、自然環境の保護や命の尊さを学ぶことができた。また、豊かな自然に恵まれている反面、厳しい自然と闘う保護者の姿を間近に見ることで、島で生活することの厳しさと勇気、そして逞しさを身をもって感じ取ってくれたのではないかと考える。



(2) 課題

- ・ 来年度は、児童3名ではあるが2学級の編成になる。PTA会員数は、変わらないが、再来年度には再び学級数減となる。児童数減少とともに家庭数の減少から、以前のPTA活動が思うようにできない状態である。しかし、家庭を持ち島に帰ってきた若者やこれから家庭を持とうとする若者もたくさんおり、今後児童数が増えていくことが予想される。まだまだ児童数が多かった頃のPTA活動が、消えることのないようにつなげていきたいと考えている。活動の縮小や少しずつではあるが形を変えながら存続していくことが、研修主題に関わってくるのではないだろうか。



- ・ 次年度は、今島に在籍する幼児8名が小学校に入学しても、ふるさとのよさを感じ、「生きる力」をしっかりと育むことのできるPTA活動になるように、地域・保護者とともに考えていきたい。